

表9 主観的指標の間の相関係数

		満 足 度	希 望 度	介護意識	老 人 観
相関係数	満 足 度	1.000			
	希 望 度	.268*	1.000		
	介護意識	-.230*	-.099	1.000	
	老 人 観	-.086	.029	.345**	1.000
有意確率(両側)	満 足 度	.			
	希 望 度	.013	.		
	介護意識	.032	.362	.	
	老 人 観	.430	.791	.001	.

\*\*相関係数は1%水準で有意(両側)である。

\*相関係数は5%水準で有意(両側)である。

表10 「老人観」、「介護意識」と客観的指標との相関係数

		在職年数	年 齢
相関係数	老 人 観	.047	.020
	介護意識	-.370**	-.211*
有意確率(両側)	老 人 観	.656	.847
	介護意識	.000	.044

の間の相関関係を調べた結果が表10である。職員の「在職年数」と「年齢」は、「老人観」の得点に対して、有意な相関はないが、「介護意識」の得点においては、有意な負の相関関係がみられる。つまり、「在職年数」が長ければ長いほど、また「年齢」が高ければ高いほど、「介護意識」が低下する傾向にある。

## 2 分散分析の結果

これまでに、「老人観」、「介護意識」と他の変数の相関関係について説明してみたが、さらに職員の介護意識に影響を及ぼす要因を把握するために、分散分析を試みた。結果は以下の通りである。

### 2-1 「職種」が「老人観」と「介護意識」に及ぼす影響

まず、表11のように、職種の違いは「介護意識」の得点に有意な影響がないが、「老人観」の得点には有意な影響を与えている。そして、図1のように、老人観の得点については、「寮母職」と比べ、「指導員」の点数が高い傾向にある。

### 2-2 「性別」が「老人観」と「介護意識」に及ぼす影響

### す影響

表12が示すように、職員の性別によって「老人観」の得点に、有意差を認めることができる。つまり、性別の違いによって、高齢者に関する知識やイメージに差が出てくる。また、図2が示したように男性が女性より「老人観」の得点が高い傾向にある。

### 2-3 「最終学歴」が「老人観」と「介護意識」に及ぼす影響

職員の最終学歴は、「老人観」と「介護意識」両方の得点に対しても、有意差が認められている。つまり、最終学歴の違いによって、高齢者に関する知識やイメージに差が出るだけでなく、職員の介護意識にも差がみられる。また、図3のように大学卒の職員の「老人観」得点が比較的高い。但し、「介護意識」については、図4にもみられるように大学卒の職員の「介護意識」の中央値は短大・専門学校出身の職員の中央値とあまり変わらないが、得点のばらつきが大きい。つまり、大学卒の職員は短大・専門学校卒の職員と比べ、「介護意識」について、個人差が大きいといえるだろう。

### 2-4 「専攻分野」が「老人観」と「介護意識」に及ぼす影響

表14が示すように、職員の専攻分野によって「老人観」の得点に、有意差が認められている。つまり、専攻の違いによって、高齢者に関する知識やイメージに差がみられる。また、図5のように